

施策番号 2-1	施 策 名 定住促進プロジェクト	基本的方向 住んでみたくなる、住み続けたくなる魅力あるまちをつくる
主管課 施策関係課	魅力創造課 教育推進課	基本目標 新たな人の流れをつくる取組を推進
		課長名 西田昌樹 内 線 233

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果		
町全体の人口構成バランスを考慮し、子育て世帯を対象とした住宅取得やUJターン者に対する情報の提供、移住イベントへの出展など、移住や定住に関する取組を進める	子育て世帯・移住定住希望者・住宅所有者	・子育て世帯が暮らせる環境を整える ・都市部から新たな人の流れをつくる				急激な人口減少を食い止め、地域の持続を可能にし、住み慣れた地域で、安心して住み続けられる。			
重要業績評価指標(KPI)	説明	単位	策定時(基準値)	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績	2024年度(目標)	
① 子育て世帯の住宅取得に係る奨励制度活用件数	実績数(累計)	件	88	199	232	284	340	250	
② 芽室町に住み続けたいと思う町民の割合	住民意識調査	%	95.8	92.9	94.6	94.1	92.7	95.0	
③									
評価指標 設定の考え方	①子育て世帯が新築・購入した件数(5年間で250件) ②95.0%以上を目指す。								

2. 施策の事業費

	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算	2023年度決算
施策事業費 (千円)	41,189	49,880	50,845	60,810
人工数(業務量)	0.5413	0.6291	0.5516	

3. 施策の達成状況

(1)施策の達成度とその考察				
①2023年度の成果評価(前年度比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	①は制度により堅調な伸びを示し、②は大きな減ではないこと、また結果として社会増という状況になっているため	
②2024年度の目標値達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	①は、今後も堅調な制度活用が見込まれる。 ②まちづくり関連事業により、官民の新たな動きの創出、今後においても積極的な動きが見込まれることから、より良いまちづくり、町への好評価につながると考える。	

(2)施策の成果評価に対する第2期芽室町まち・ひと・しごと創生総合戦略の事務事業の総括

①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	定住促進事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業
③事務事業全体の振り返り(総括)	各種の定住促進策をしっかりと進めたことにより、移住や定住につながり、結果として奨励金制度の活用が堅調な伸びを示していることや、人口の社会増につながっている。	

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(総合戦略策定時との比較)

担当課 評価	定住奨励金や、その他の行政サービス等による人口の社会 増、また住みよいまちづくりの理念を各種の定住政策事業で連 動して推し進めていることから、前進していると判断する。	進捗結果	A	B	C	D	E
			○				

A:実現した B:(総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C:(総合戦略策定時と比較して)前進した
D:(総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(総合戦略策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》 高齢・人口減少が進む中、まちづくりの担い手減少は、持続可能な住民自治のまちづくりに大きな課題で、今後においても継続的に、住む方の満足度向上や新たな担い手の確保が求められている。</p> <p>《今後の予測》 順調な定住促進を進めるためには、空き地・空き家情報が最も重要で、市街地の未活用物件の活用へのニーズ対応、移住希望者からのニーズが多い郊外地など物件情報数は少なく、環境整備、制度、仕組みの改善が必要である。</p>
この施策に対して 住民・審議会・議会 からどのような意見 や要望が寄せら れ、どのように改善 したか。	特になし

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

・移住定住のための仕事と宅地・住宅情報は軸となる両輪であることから、宅地・住宅情報のますますの強化は必要である。
その両輪を担っているククルクスと住宅情報協会との情報共有、事業連携はもちろん、まちなか再生事業とも連動して、遊休地・物件の販売・賃貸などへの動機づけ、不動産市場の情報が活発化する対策を実践していく必要がある。
・定住の動機となる金銭的支援だけではなく、定住後も住み続けたいと思えるような政策もしっかりと紐付け、連動させ、感じてもらえるようにする必要がある。

6. 経営戦略会議(府内評価)

評価	担当課評価同様に前進したと評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
			○				
今後の取組 に対する 意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A:実現した B:(総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C:(総合戦略策定時と比較して)前進した D:(総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(総合戦略策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	府内評価同様に前進したと評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
			○				
今後の取組 に対する 意見	特になし	A:実現した B:(総合戦略策定時と比較して)大きく前進した C:(総合戦略策定時と比較して)前進した D:(総合戦略策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(総合戦略策定時と比較して)後退した					